

教員評価を実施しての教員の反応について

18年度は教員評価制度を10月～3月までの半年間で試行実施し、約10%（※1）の教員が参加しました。その際、教員からは「教員評価の実施以前に、教員全員について、最低限でも1サイクルつまり1年間の試行期間をおくことが必要だ。」、「自主性・自発性を重んじる制度であるというのならば、参加についても自主的な参加でよい。不参加の者に対して何かペナルティを課すのか。」といった制度実施そのものに関する疑問や質問が多く寄せられました。

19年度には全教員を対象とし、約95%の教員が参加しました。実施初年度であったため、「なぜ教員評価を実施するか分からない」、「高い専門性を有している教員に対し本当に適正な評価ができるのか」、「病院ではチーム医療で行っているため、教員個人の評価はできない。非常に繁忙であるし、全員をA評価とせざるを得ない。意味があるのか。」といった批判的な意見が多く寄せられました。一方で、「評価者による公正な評価を担保するため、評価基準や異議申し立て手続きについてきちんと整理する必要があると思う。」といった建設的な意見も寄せられています。

制度開始2年目である今年度は5月から個人目標の設定を開始しております。また、6月には評価者研修を実施しております。研修でのアンケート結果では、「目標設定の締切り期限より前に実施してもらいたかった」、「具体的で非常に参考になった」と前向きなコメントが多く寄せられました。また、アンケート項目の中の「研修内容」に関する設問（※2）では、以下の表のとおり意識が変化していることが伺えます。

※1 18年度は教員評価制度を構築する前段階の課題分析という視点から自由参加で試行実施しました。

※2 アンケート結果（研修内容に関する満足度の割合）

	満足					不満足
	5	4	3	2	1	0
19年度	2%	30%	33%	17%	9%	9%
20年度	8%	42%	30%	9%	8%	3%